2021 年度 森泰吉郎研究振興基金 研究者育成費
研究成果報告書

所属：政策・メディア研究科
学年：後期博士課程 2 年
学籍番号：82049031
氏名：綾瀬泉

研究課題名：理想的な自己の顔魅力に関する実験・臨床心理学的解明

1. 研究概要

本研究は，自己の目の大きさに対して魅力評価を行い，自己の顔不満足感と顔魅力の構造を明らかにすることを目的としている。現在，身体醜形障害患者の増加から自身の顔について不満足感を持つ人が増えていることが窺える。目が大きく見えることは，顔魅力の一要因になり得ることが明らかにされているが，顔不満足感も持つ者が自己の顔に対しても同様に感じるかは定かでない。また，他者の目の大きさについて魅力評価を行った研究は多数行われているものの，自己に対して魅力評価を行なった研究はなく，自己評価による魅力認知の観点から理想的な自己の魅力を探ることは重要であると考える。

2. 本年度の研究成果

本年度は，自己の顔に対する不満足感を測定する顔不満足感尺度への回答及び自己顔・他者顔を用いた 2 肢強制選択課題による心理物理学的実験を行った。2 肢強制選択課題は，心理実験作成ソフト PsychoPy3 で作成し，Pavlovia と同期させることでオンライン実験を実行した。調査対象者は大学生および大学院生 15 名（男性 4 名，女性 11 名；年齢 21.4±2.32 歳）であった。対象者同士は，同じ研究室に所属しており，お互いの顔を比較的よく知っている関係であった。2 肢強制選択課題では，自己顔・他者顔に対し，魅力的だと感じた場合は右矢印，魅力的でないと感じた場合には左矢印を選択するよう求められた。実験刺激である顔写真は，目の部分を，一切の加工を加えていない写真，目を拡大，縮小（高さ，幅±5，10，15，20%）した写真を作成し，1 人あたり計 9 パターン 1 セットとして使用した。顔写真は 1 セットにつき 20 施行，計 180 施行行われ，顔写真はランダムに提示された。本調査は，慶應義塾大学内の SFC 研究倫理委員会の承認を得て実施された。

自己の顔に対する不満足感と自己顔・他者顔における目の大きさ魅力の関連を明らかにするため，自己顔 1 名，他者顔 3 名，合計 4 名の顔不満足感尺度の合計得点および PSE の相関分析を行った。結果として，顔不満足感が高い群・低い群の両群において，自己顔・他者顔どちらも一切の加工を加えていない顔写真よりも目を拡大した顔写真を

魅力的だと認識することが示唆された。顔不満足感が高い群に関しては，最大拡大率である 20%の顔写真であっても魅力的だと判断する傾向がみられた。今後は，さらに目の拡大率を上げた顔写真を用いて実験を行い，顔不満足感が高い者が魅力的だと認識する目の大きさを明らかにしていく予定である。本研究が完遂されることにより，顔魅力という概念において，理想自己と現実自己の差異を明らかにすることが可能になると考える。

3. 査読論文と学会発表

【国内】第 26 回 日本顔学会大会（フォーラム顔学 2021），高校生と大学生における顔不満足感，ポスター発表，2021 年 9 月 18 日 19 日

【国外】2021Australasian Congress for Personality and Individual Differences，Psychometric properties of the Face Dissatisfaction Scale: evaluation of reliability, validity and cutoff value for body dysmorphic disorder, poster, 2021 December3-4

以上

謝辞

森泰吉郎記念研究振興基金は，実験に用いる機材の購入に使用させていただきました。ご支援に心より感謝いたします。来年度以降も引き続き研究に邁進してまいります。